

令和3年度 第1回鶴岡市総合教育会議 会議録

- 日時 令和3年6月24日（木）
 ○場所 市立朝陽第一小学校 会議室
 ○出席構成員 市長 皆川 治
 教育長 布川 敦
 教育委員 田中 芳昭
 教育委員 清野 康子
 教育委員 毛呂 光一
 教育委員 齋藤 美緒
 ○出席者 朝陽第一小学校 校長 鈴木 郁夫
 ○出席職員 総務部参事（総務部長代理） 吉泉 一郎
 ○傍聴人 7人

- 進行 教育部長 本間 明
 議事説明職員 管理課長 木村 健夫
 学校教育課長 成澤 和則
 学校教育課指導主幹 渡邊 智
 学校教育課指導主事 山中 秀人
 事務局職員 管理課課長補佐 山口 喜兵衛
 管理課庶務係長 原田 孝昭
 管理課庶務係主事 後藤 茉結

開会（午後2時00分）

***** 授業参観 *****

開会（午後2時24分）

教育部長	<p>皆様、授業参観お疲れ様でございました。</p> <p>それではただ今より、令和3年度第1回鶴岡市総合教育会議を始めさせていただきます。私は本日の進行を担当いたします、教育部長の本間でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、皆川鶴岡市長より御挨拶をお願いいたします。</p>
市長	<p>令和3年度第1回鶴岡市総合教育会議の開催にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、鈴木校長先生には、今日は6年1組の社</p>

	<p>会科の授業ということで、タブレット端末の活用の状況も含めて、今日この場を御提供いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>私も初めてタブレットを使っている様子を見させていただきましたけれども、まず子供たちが非常にスムーズに使っているなどという感じがいたしました。できない子供、少し手間取っている子供に友達が助けてあげるといったようなことも、こういうふうにしてやっているのだなということがわかりました。また、子供たちの使用ということもある訳ですが、教える先生の授業の準備も大変なのだろうと、ああいうふうにスムーズに授業にもっていくために、端末とそれから今まで使っていたような教材とを組み合わせ取組んでおられる様子が見て取れたところでございます。この学校現場での活用が全国でも進んでおりますし、鶴岡においても進んできておりますので、この活用を如何に進めていくのか、家庭に持ち帰るといったようなことも今後想定されるということもでございます。</p> <p>また、学校の統合型校務支援システムなど、学校現場におけるICTの活用もさらに進んでいくということでございますので、教育委員会の取組、また、市長部局といたしましても、子供たちの健やかな成長ということは、本市の発展のために不可欠なことでございますので、先生方の働きやすい環境整備も含めて、今日、教育委員会の教育委員の皆様とともに、実情をしっかりと把握させていただきたいと思っております。教育環境整備の充実のため、教育委員の皆様、忌憚のない御意見をお願い申し上げまして御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、教育委員会を代表いたしまして、布川教育長より御挨拶をお願いいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>皆様こんにちは。鶴岡市総合教育会議の開催にあたりまして、教育委員会を代表しまして一言御挨拶申し上げます。</p> <p>まず、市長におかれましては、日頃より本市教育行政に御理解と御支援をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>さて、この総合教育会議も必要に応じ、教育現場や教育委員会の関連施設で実施したいというふうに考えておりました。今回初めて学校を会場に開催することができました。本日は会場及び授業を提供いただきました、朝暘第一小学校鈴木校長先生に感謝を申し上げます。今後も協議等、必要に応じ教育施設等での開催を企画してまいりたいと感じているところでございます。</p> <p>本日の主要協議題である、GIGAスクール構想の推進であります。急速に進展するICT技術を如何にして教育現場に取り入れ、児童生徒個人々人にとって、最適で充実した学びにどのように繋げるか、学校現場はもとより、教育行政に携わる私たちにとりましても、重大な課題であると認識しております。先ほどは6年1組の授業を参観させていただきましたが、鈴木校長先生からは、学校現場の生の声をお聞きしながら、現状の理解を深め、更なる施設設備、環境設</p>

	<p>定、研修の充実に繋がる協議ができればと考えております。</p> <p>今後もより一層、市長と連携を図りながら、円滑で実りのある教育行政の執行に活かしてまいりたいと思います。本日はどうかよろしくお願い申し上げます。</p>
教育部長	<p>次に、本日の進め方について御説明申し上げます。</p> <p>本日の主な協議題は、「G I G Aスクール構想における学校現場での I C T活用について」でございます。協議題について所管課から現状について御説明申し上げた後、教育長、各教育委員、市長の順に御意見を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、協議に入りたいと思います。G I G Aスクール構想における学校現場での I C T活用について、説明を学校教育課長よりお願いします。</p>
学校教育課長	<p>それでは、G I G Aスクール構想推進事業の概要について御説明をいたします。</p> <p>今年度のG I G Aスクール構想推進事業は、「学校のデジタル化で子どもたちの学び方改革と教職員の働き方改革を推進する」をキャッチフレーズにして、大きく3つの取組を進めてまいりたいと思います。</p> <p>まず一つ目が、「1人1台端末とネットワークの活用」についてです。I C Tの活用は目的ではなく、あくまでも手段になります。各校では、児童生徒の学びの質を高め、学力を向上させることを目的に、今までの指導にプラスして効果的に端末とネットワークを活用してまいります。</p> <p>活用の例についてですが、例えば、インターネットを利用したの情報収集や写真・動画による記録・説明は、多くの教科の様々な活動で容易に活用することができます。また、本日の授業でも子どもたちが活用しておりましたけれども、デジタルノートやプレゼンソフトを活用し、グループや学級全体で発表したり、話し合いをしたりして意見や考えを整理する協働的な学習も容易にすることができます。さらにビデオ通話機能を使用して遠隔地にある学校と交流したり、入院している児童生徒の学習機会を設けたりすることも可能になります。</p> <p>2ページを御覧ください。活用を進めていくためには、教職員の研修は必須となります。昨年度より教職員を対象にした研修を計画的に進めてまいりました。研修を含めました学校へのバックアップ体制につきましては、後ほど、担当の山中より詳細を御説明いたします。</p> <p>取組の二つ目が、2の「家庭での活用」になります。現在、家庭の通信環境を調査し、調査をまとめている段階です。また、各校では端末の使い方の習熟やルール等の理解も図っております。今後、7月から8月にかけて、通信環境のない家庭にW i - F i ルーターを貸与したり、通信環境の整っていない要保護と準要保護の世帯には、通信会社と法人契約を結んでS I Mカードを配付したりして家庭での通信環境の整備を支援し、2学期からは本格的に家庭での活用も進めてまいりたいと考えております。</p> <p>3ページを御覧ください。取組の三つ目が3の「統合型校務支援システム」の導入になります。今年度は、中学校11校に導入し、令和5年度まで小学校全校</p>

	<p>にも導入していく予定です。導入するシステムの内容は、記載のとおりになりますが、導入による効果としましては、事務的な校務負担が軽減されることにより、子どもとじっくり向き合う時間や教材準備等の時間が確保され、それが、授業や教育相談の充実に繋がるとともに、時間外勤務の軽減にも繋がりが、働き方改革が実現されると考えております。</p> <p>学校教育課といたしましては、今後も、各校での活用の状況等を把握し、一つ一つの課題にも適切に対応しながら、3つの取組の推進に努めてまいりたいと思います。私からは以上です。</p>
<p>学校教育課 指導主事</p>	<p>続きまして、バックアップ体制について、学校教育課山中と申します。ICT担当をしております。私の方から説明させていただきます。</p> <p>ページの方は4ページを御覧ください。子供たち、先生方がスムーズに端末を活用できるように、教育委員会といたしましてはバックアップ体制を3つの方策で考えて整えているところです。1つ目が「情報共有」になります。2つ目が「研修」になります。3つ目が「対応」というところです。</p> <p>まず「情報共有」の方から説明をさせていただきます。これまで各学校に向けて、また、市民の皆様に向けても情報の共有をさせていただいたところです。例えば、リーフレットがございます。お手元に二種類のリーフレットがあると思いますけれども、一つは教職員向け、一つは保護者の方向けということで、こちらの方を先生方、保護者の方々に配布させていただいて、GIGAスクール構想とは何か、これからどのように教育が変わっていくのか等々、どのように活用していくのか周知をさせていただいたところです。</p> <p>また、別の資料がございます。ホチキス留めになっておりますが、こちらの1ページ目を御覧ください。子供たちに対しても教育長からメッセージということで、「このような思いでこの端末を整備したんですよ」というメッセージを发出させていただきました。また、学校に関しては端末をどのように使っていけばいいのか、そのルールに関しても、2ページ目、3ページ目、4ページ目とありますが、これは高学年から中学校向けですけれども、周知の方をさせていただきました。あとは学校において適宜付け加えたりして学校独自でも活用できるようにしたところです。</p> <p>また、今後、各種マニュアル、それから先生方の今日の授業のような活用事例等をしっかり情報共有していきたいと考えているところです。</p> <p>また、5ページ目になりますけれども、端末等の情報に関しては、メールで流すのではなく、通信としてしっかりとした書面で学校の方に流させていただいております。「GIGA、ICTる？(ギガ、アイシテル?)」という通信を不定期ではありますが、情報発信ということで私の方からさせていただいております。これらの情報に関しては、学校と教育委員会も見られるグループウェアの中で、しっかりどこにこういうものがあるかということをお示しながら情報共有の方をさせていただいていますし、市のホームページにも一部掲載しているものもございます。</p>

二つ目のサポートといたしまして「研修」がございます。まず、全ての教員に対して研修を行うべきだろうと考えまして、7ページになりますけれども、昨年の10月から2月、それから8ページにもわたっておりますが、4月にかけて、各校1回目の研修を行わせていただきました。全ての学校で行ったところです。また、8ページになりますけれども、2回目の研修、これも各校回って、全ての学校で研修をさせていただいております。また、各校から要請があれば、要請に応じた研修もさせていただいております。

9ページを御覧ください。(4)、各校にICT担当教員という者がおります。その教員向けにまた年間3回の研修を考えております。2回目が10月、3回目が2月と予定しております。それから教科別機能別の研修も必要だろうということで、(5)になりますが、イブニング講座ということで、5つの講座を今年度計画しているところです。それだけではなく、(7)になりますが、管理職の先生、校長先生方にも研修を受けていただくということで6月8日になりますけれども、校長会議の後に、ICTの研修会を設けました。今年度はあと教育講演会といたしまして8月3日に先生方に講演をお聞きしていただくということになっております。

研修に関しては、現在は指導主事の事例紹介となっておりますが、3年くらいかけて実践している先生方に良い事例をどんどん、どんどん紹介していただいて、鶴岡市の全ての先生方をあげて研修を進めていきたいと考えているところです。

最後、「対応」になります。これまで、教育のICTと言いますと、学校教育課、それから管理課の方で行ってまいりましたが、なかなか担当がないというところがありました。そこで今年度からICT推進係というものを立ち上げて、学校に端末が1万台以上になりますので、しっかり対応できるように係を立ち上げたところでございます。

4ページのバックアップ体制の一覧を見ていただきますと、設定・管理に関しましてはICT推進係、それから活用サポート・研修に関しては指導係の方と、しっかり役割分担を行ってサポートをしておりますし、我々だけではなかなか見きれない、サポートしきれない部分もございますので、端末の整備業者さんと運用保守契約を結んで、何かあれば直ぐ学校に駆け付けられるという契約を結んでおります。おかげ様で、毎日電話が我々の方に来て、「こういう時どうしたらいいんだ」とか、「今ちょっと繋がらないんだけど来てくれないか」という問い合わせ等もございます。それに直ぐ対応できるように、このような体制も整えているところです。

この3つの柱をしっかり整えまして、学校でスムーズに活用できるように現在取り組んでいるところです。なお、鶴岡市の研修に関しては、本格的な整備・活用が4月からでしたが、昨年の10月から研修を行っております。全国的にも早い取組ということで、Sky(スカイ)株式会社さんの情報誌が、全国の教育委員会、それから学校に配布されておりますが、この中でも、特集を組ま

	<p>れて紹介されております。14ページになりますけれども、こちらの方も是非御覧ください。私の方からは以上になります。</p>
教育部長	<p>続いて、鈴木校長先生の方から、学校現場での活用状況等について御説明をお願いいたします。</p>
朝陽第一小学校長	<p>本日は本校の授業の様子、ICT活用の様子を御覧いただきありがとうございます。学校の様子を少しお話しさせていただきますがスライドもありますので、お手元にも資料ございますが、この資料とスライドを併せて御覧いただければと思います。</p> <p>まず、本校での現在のGIGA端末の使用のねらいということで、お手元の資料にも書いてあるとおりですが、まずAとして、教師が学習の効果を高めるために取り入れようというふうにしています。もう一つ、子どもたちが学習ツールとして使えるようにしましょうということねらいとしています。</p> <p>ICTの可能性・有効性の実感ということで、実際に我々使わせていただいている訳ですが、子どもたちの興味・意欲が喚起されている実感はあります。ああいうツールを出して使うということも、なかなか気持ちの向かない子供たちにとっても有効だと感じています。</p> <p>それから、コミュニケーション手段の多様性ということで、ポジショニングという研修で習った手法なんです。担任の方でそれを使っての社会科の授業だったのですが、研修の時は道徳で気持ちの揺れなんかを表わすために丸を使っていたんですが、今日は選択させてということで応用して使っている訳ですが、普通の授業であれば、なかなか自分がどういう意見を持ったかということを出し表すことがないまま45分過ごす子どももたくさんいたんですが、今日の場合はあのように可視化されるので、また教師の意図によってそういうところを引き出せるということと、自分の考えが前に出ているので、やはりそれなりの考えを持ってそこに参加するという主体性も引き出されていると思います。</p> <p>それから、技能習得への具体的な支援ということで、今までなかなか聞くだけでは習得できなかったものが、視覚の方が優位なお子さんは、ああいうツールを使うとその辺が強みとなって今まで習得できなかったことが習得できる可能性が高まったということもあります。</p> <p>それから、理解方法の多様性に対応ということで、インプットの仕方に色々その子、その子で違いがある訳ですが、ああいうICTが合っている子供の中にはたくさんいますので、そのための一つのツールでもあるなと感じています。</p> <p>現在、21学級あるんですけれども、使用の実際なんです。いつ使わせるのかという段階から、できれば、いつ使わせないかという、この前の校長会の研修会でも出た視点だったんですけれども、こういうように運用していきたいなと考えているところです。現在は教師から指示のあった授業中に一斉に使用しているのがほとんどのパターンです。または、普通に授業している中で、2、3人の子がタブレットを自分の机の上に出して、インターネットで何か分からないことがあった時に、誰々君と言われると検索して、「先生こういうのがある</p>

ました」と出してくれるというように、使用に慣れている子が代表して使っているという場面もあります。

それから、授業以外での使用について、全校での約束として、昼休みにタイピングソフトやプログラミングソフトは使用しても良いという約束になっています。ほとんどは外で遊びたい子どもがたくさんなので、元気よく外に出ますが、やはり回って見ると、昼休みに教室に残って使っている子もいます。それから中間休みに課題があって、中庭の写真を撮るように言われて撮っていて、繋がりが悪くて写らなかったということもあったのですが、そういうように色々な授業以外の場面でも子どもたちが使う姿も少しずつ増えてきているところです。

これは1年生の最初の授業で使った頃です。これは6月の頭です。1年生の端末が鶴岡三中から下りてきて、個人個人に割り振って、本当に確認して使えるようになったのが5月の下旬だったので、6月から使ったというような感じでした。スイッチの入れ方、電源の入れ方、それから電源の切り方、どこを押すとどうなるのかと触っている本当の最初の段階です。1年生もこの後、朝顔の観察のところでタブレットを外して持ち出して写真を撮るところまでは活動で使っています。

これは2年生の授業ですが、図画工作・生活科で自分の作った作品を写真に撮っているところです。あの女の子の足の間には自分のお気に入りの作品があって、新聞紙で作ったものでしたが、それをこの角度から撮っていると。これを2年生は端末を使って担任に提出しているというところまで使っているようです。そして、担任はそれを各個の作品を集めて評価に使うということでした。

これも同じく2年生の観察で、外で使っているところでした。ただこれが、スカイメニューがネットに繋がらない状況だと、タブレットのハードに写真を撮らなくてはいけなくて、そのあたりの違いを子どもに体験させながら、だんだん身に付けてもらうということで、これは教室に帰った後、フォルダから写真を移したりという作業も2年生の子はやっていました。これは、肢体不自由のお子さんですが、今まではなかなか参加できないような時も、「写真を撮る」と一緒に活動しているところです。

これがソフトに入っている、休み時間に使って良いとしているもので、ゲーム感覚でプログラミングの学習やタイピングの練習ができるものが入っていて、子どもたちはこれを使ってやっている様子です。

これは6年生が調べ学習、この後討論会をするみたいで、その時に使っているものでした。この子はペンを使って入力したりして使っています。この子はタイピングが少しできる、ローマ字で打ち込めるということで、自分で打ち込んで自分の意見を書いているところです。ただこれはまだ混在していて、手前の女の子はタイピングしていますが、奥の子はペン入力しているとか、こういうのが混在している状況で、使い込んでいくことによってアルファベット入力がどの学年からできていくかということで、今、「何年生からしていけば良いの

か」ということが校内で話題になっているところでした。

今日の授業でもそうでしたが、このように使うことで、意見表明することで、その後に対話が生まれるというか、「どうだった？」などと意見交換の場が見られるようになりました。また、分からない子に対しては教えてくれる子もいて、自分の得意な分野で人と関わって教える姿も見られます。

これは昼休みの掃除の前の時間で、後ろで女子が楽しそうに遊んでいますが、この後の授業で討論会があるということで、この男の子は昼休みにそれについて調べたいということで担任に申し出て、タブレット使っていいですかと申し出て、調べ学習を一人でしているということで、自ら学ぶという姿勢の芽生えではないかと担任が喜んで写真を撮ったようでした。

今後の活用を広げるためにということで、現時点では端末の持ち帰りはしておりません。先ほどお話ありましたが、今、家庭の環境調査中です。本校のまとめの途中だったんですけども、ルーターの貸出しを希望するというのが11名、分からないと答えた方が5名いました。ただ、この「希望する」という方も個票をよく見てみると、家に環境があるのにルーターの貸出しを希望すると書いているので、貸出しの趣旨がこのアンケートでは伝わらなかったのかなということでした。

ですから、「環境がない」という家は、この数よりは少なくなると思います。その中で、数例でしたけれどもコメントのところに、「経済的に厳しい家庭はインターネット環境を整えることができません。そういった場合、子どもはどうなるのでしょうか。」ということで、「ルーターは貸し出すが通信費は原則家庭負担である」と書いたことに対して、このように答えている御家庭もありました。ただこの御家庭は後ほど、「なんとかWi-Fi環境を整えました」というふうに担任の方に報告あったそうです。その家庭、その家庭で悩みながらいろいろ進めてくださっているようです。

夏季休業中、本校では持ち帰らせる予定です。家で自由に端末を触ってタイピングにも慣れて欲しいなというところです。あとはネットに接続してみて、おうちの方とネットに繋がるか見てもらうということです。それから秋のPTAの講演会については、持ち帰った端末で、親子でSNSのお話なんかの講演を見てもらう予定にしています。それをきっかけに家庭と学校と同じ取組ができるようにしていきたいなと考えているところです。

学校の中で、ICT教育というふうにして捉えるのではなくてと考えているのは、実は学校の中に色んな取組がありますので、それも中の一つとして考えています。それから学校研究と絡めても、ICTを上手く入れるようにしています。今後、子どもたちの学習ツールとして、使う術を身に着けていけるようにしたい、それから使えることが増えたことを活かして指導の可能性を考えていきたいということです。すみません、長くなりました。以上です。

教育部長

鈴木校長先生ありがとうございました。

それでは次に、委員の皆様より御意見を頂戴したいと思います。まず初めに、

	布川教育長よりお願いいたします。
教育長	<p>まず、4月から各学校で本格的に活用いただいているタブレットですが、このように同じ土俵でお話ししていただくということが大変貴重な時間だなというふうに思っております。タブレットの導入後も各校でまずは慣れてみようというふうに、しっかり使っていただいていることに感謝しております。</p> <p>研修体制は先ほど山中からありましたとおり整えておりますけれども、私も、先生方が分からないことでも結構児童生徒が分かっていることがあったりするものですから、先生も「私はできる」ではなくて、「子どもたちと一緒に使い方を覚えていこう」くらいの気軽な気持ちで使っていただければありがたいなと申し上げてきました。</p> <p>今日の授業ですが、非常に効果的に使っていただいて、本当に個々の学び、それから鉛筆や消しゴムのように普段からずっと使えるような何気ないツールになっているなということ、大変嬉しく思いました。是非技能を高めていただければなと思っております。</p> <p>5月から全校訪問させていただきまして、ちょうど1年生が、他の学年もそんなんですけども、今日からタブレットを使うという時に結構遭遇しまして、大事そうに教室に持って行くのでした。結構重いのです。それで、その姿を見た時に、新しい学習への期待というのをすごく感じました。それから中にはタブレットへの順応の速さ、恐ろしくタイピングも速くて、かなり同じ学年でも差がついているなということも感じましたし、個々で学びが完結するのではなくて、今日のように学級全体で探求型学習になるように個々の技能を高めながら、是非学びを深めていただきたいなと感じたところです。</p> <p>また、本校でもいろいろ課題があったようですが、他校でも実際不具合があって授業がストップする場面もありました。実際、不具合ですが、使ってみなければどんな不具合が生じるのか絶対わからないのです。使わないでいれば、何が困るかもわからない状態なので、私は使っていただいて、「こんな不具合がありました」と教育委員会に言っていたいただいた方が、よりその学校がタブレットの活用ができる環境がどんどん整っていくんだというふうに校長先生にもお話しして、どんどん苦情を言ってくださいと逆に申し上げてきました。全校一斉に使うような場面も設定していただいて、全校で一斉に使った時に、例えばフリーズしたりしないかとか、そういうことも含めて実験することも大事ではないかということもお話させていただきました。</p> <p>まず、より快適な環境になるように教育委員会としても全面的にバックアップしていきたいなと思います。やはり使っていただいてなんぼのものなので、ただの箱にしなくてももらいたいということだけ、私は校長先生方にもお願いしていますので、是非、今後活用していただいて、子どもたちが目を輝かせて勉強していただく、そういうツールになればありがたいなと思ったところでした。</p> <p>非常に今日は良い授業も見せていただいてありがとうございました。</p>
教育部長	では、齋藤委員お願いします。

齋藤委員	<p>この会議の開催が決まったので、あまり知識がなかったので自分なりにもうちょっと知りたいなと思って、市内の小学校の先生たちの研修会に参加させていただきました。先ほど山中先生からお話があった研修会ですけれども、まさに今日、子どもたちが授業をやっていたポジショニングについて、どうやって使っていくのか、こういうふうな説明を先生たちにしている中で、私も未来の話というか、こういうことができるんだなと感動していました。そして、今日授業でスムーズに使っていたのを見て、とても驚いて、素晴らしいなと思ったところです。そして私のことを言わせてもらおうと、我が家には子供が2人いるのですが、小1と中1がいるのですが、まだ自分のタブレットにすら気づいていない状態、まだ触ってもないです。そういった面で、同じ市内でありながら格差があるなというふうに感じました。</p> <p>もう一つなんですけれども、ICTの活用については、去年の臨時休校の話から鶴岡市でもオンライン授業を進めようということ急速に進んだ話だと認識しているのですが、今順調に対面で授業ができている今こそ、先生たちにも子どもたちにも、とにかくタブレットに触れるという機会を一杯与えていただきたいし、それからもう一つ、いざオンライン授業になったという時に、それが今の段階では我が家では使いこなせないと思っています。</p> <p>そういった面で、先ほど2学期くらいから持ち帰りということで校長先生からお話あったのですが、早急にそういう準備を進めていただきたいな、持ち帰りができるような環境にしていきたいなというふうに思います。以上です。</p>
教育部長	はい、ありがとうございます。清野委員お願いします。
清野委員	<p>私、今日の授業を見るまで、どういうふうに端末を使った授業をされているのだろうと、なかなか想像できなかったのですが、私の想像を超えていたなというところで、とても今のお子さんたちが羨ましいなと思いました。私の子供は朝陽一小卒業なのですが、今だったらよかったなというくらい、とても羨ましく思ったところです。</p> <p>やはり教育長さんもおっしゃったように、文科省の方でもStuDXStyle（スタディーエクススタイル）なんていうものが出ていて、そこでは「慣れよう」となっていますよね。なので、やはり慣れることが大事というか、とにかく使わなくてはダメなのではないかと。私たちの年代だとどうしても「壊したらどうしたら良いのだろう」と不安になってしまうという先生もいらっしゃると思うのですが、そうではなくサポート体制があるからどんどん使いましょうということで、やはり先生も子供たちも使って慣れるということが必要なのではないのかなと思います。</p> <p>そして、個別最適化された学びということが、どういうことなのかなということが、なかなかよくわからないのですが、英語で言うとアダプティブ・ラーニングと言われているようですが、やはり使わないとアダプトされていけない部分があると思うので、そこもやはり使っていく必要がともあるのではないかな</p>

と。私のイメージだと、今の先にあるのが、例えばネットショッピングをすると、「次は、あなたにはこれが最適ですよ」なんてネットに出てきますよね。いずれはそういうことで、個別最適化というのは、そこまでいくことが一つねらいとしてもあるのではないのかなというふうに思っております。

今日の授業を見てもう一つ。子どもたちの気持ちがどっちに向いているかというのは、今までの紙ベースで先生が教室回っていくのだとわからなかったところが、中間の気持ちまでわかる、子どもたちの考えが見えてしまうというのは、今まで手を挙げられなかった子供たちの言葉というか、気持ちを、意見を拾っていけるというのは、こういうこともできるのだなと感心してとても良いことだなと思っています。

教育長さんも議会の中で述べられたのが、支援の必要なお子さんもこのツールによって授業に参加できるということがありましたけれども、やはり広がっていくのかなというふうに、今日お話を聞いていたところでも、とても感じていたところです。

教育長さんも先ほどおっしゃっていましたが、子どもたちは今、生まれた時からスマホに触り、タブレットに触りという時代なので、多分先生よりできるお子さんって、いらっしやると思うのです。なので、子供たちに聞いてみるというのも一つだと思うのです。「あなただったらどうしたい？」と、先生が「私はできない」と言うよりも、できる子にどんどん聞いてできる子の意見を拾っていくということは、できる子がさらに伸びるということにも繋がっていくのではないのかなと思っています。

そして、子供のところが整備されました。ではその一つ前というところが先生だと思うのですが、先生の差が、子供が受ける側の差にならないように。先生1人の差が最大33人の差に繋がってってしまうというのもあると思うので、その差はやはり、齋藤委員もおっしゃっていたように同じ一人の市民と考えれば、差が無いようにして欲しい。なので、子どもだけではなく先生も取り残されないようにしてあげて欲しい、言い方は失礼ですけども、そうして欲しいなと思います。研修会なども開かれているようですが、研修会に先生が出ると「あなた研修会出たじゃん」となってしまうと思うのですが、そうではなくて、先生が分からないことはわからないと言いやすい、わからないことを聞きやすい環境ってどうしたらいいのかなと難しいと思うのですが、その環境も大事なのではないかなと。

もう一つは、GIGAスクール構想の目的を本当に先生たちが理解しているのか。理解してくると、考え方も変わってくるのではないかと。使いこなせればいいだけではなくて、その先に来るべきSociety 5.0を生き抜く子どもたちに生きる力もつけさせてあげているんだということも、先生方がわかることで意識も変わってくるのではないのかなと考えたところです。

お家の環境の整備とか大変だと思うのですが、そこは是非、差が無いように補助とか助成していただきたいのですが。あとは保護者の方にGIGAスクール

	<p>構想のことがどのくらい伝わっているのかと。やはり保護者の方にもしっかりと理解してもらうように、わからない方には丁寧に説明してあげると、保護者の方にも、とてもパソコンに詳しい方がいらっしゃると思うので、例えば朝陽一小だと、今あるのかわかりませんが、サポーター制度という「水泳ができるお母さんは水泳手伝ってください」とかあると思うんですが、パソコン得意なおうちの人は手伝ってくださいということ、やはりおうちの方にも手伝っていただけるところは手伝っていただいて、子どもたちが不自由なく使えるようになれば良いと感じています。以上です。</p>
教育部長	はい、ありがとうございました。続いて田中委員からお願いします。
田中委員	<p>私の意見の前に、校長先生に何個か質問したいと思います。先ほどの校長先生のお話の最後の「7お願い」のところで、「これまでいくつかの教育機器が使われてきたが、いまだに黒板とチョーク」というふうにありますよね。そして「期待の大きかった電子黒板の現状は、その原因は」とありますけれども、ここのところはどういうことをおっしゃりたかったのでしょうか。</p>
朝陽第一小学校長	<p>私が教員をしている間に、ここに挙げたような機器も色々最新だよということが出てきたのですが、それなりに使わせていただいたし、子どもたちにも効果もあったのですが、それでもやはり黒板とチョークがあって、板書を写すと。こういう行為自体にも価値があるし、大事なところもありますが、そこから抜け出せないでずっと繰り返して来たかなと思っていたところでした。</p> <p>電子黒板が入ってきた時に、すごく画期的なものが入ってきたと思っていたのですが、やはりそれだけのものであって、今のようにネットに繋がるとか、そういう広がりがない状態だったもので、結局使い余してしまったという苦い経験が私としてはあったものですから、今回これだけ整備が進んだものについて、そのようなことになっては大変もったいないという意識がありますので、若い人たちは当たり前だと思って使うかもしれませんが、過去の事例を知っている者としては、そうならないようにできる限りサポートしていきたいなと思っているのがこの文言です。</p>
田中委員	<p>私も同意見です。いろんなものをやって、でも結局、生徒も教師も黒板とチョークに戻っていくと。それはなぜなのかというところをもう少し考えていかなくてはならないなというのが一つです。</p> <p>それから、今日の授業では1クラス一斉に使ってサクサク動いていましたが、前に鶴岡南で最初にああいう授業をやり始めた時に、フリーズしちゃうんですよね。やはりWi-Fi環境が遅かったので。そういうWi-Fiの繋がり方、それから、ある学校のこの場所ではWi-Fiがなかなか拾えないとか、そういう使いにくさがあったのですが、一小ではそういう状況はまだないですか。</p>
朝陽第一小学校長	<p>田中先生のおっしゃるとおりで、目に見えない電波を頼りにしておりますので、実は使い始めの頃は、似たような時間割・時間帯で使うことが多かったのです。そうすると、隣の教室も、隣の教室も使っているなという状況の時になかなか繋がらないという状況がありました。そのあたりを委員会の方にも相談しま</p>

	<p>して、もう少しルーターを増やすとか、できる工夫をしていただいて、改善したところもありますが、単独のクラスで使っている時にもなぜか動かない時があって、なぜなのかなと思った時に、よその学校も影響しているんだというお話を聞いて、やはり市全体の太さというか、そういうものも影響しているところで、コンクリートでできた建物の中の部分部分での繋がりへの悪さ、この解消も勿論なんですけど、その根幹の太さの改善もこれから考えないと、隣の学校に電話して「ちょっと休んでくれ」という訳にもいきませんので、そのあたりが使えるように、原因がどこにあるのか我々にはわかりませんので、専門の方からその辺分析していただいて、改善していただければ大変ありがたいと思います。</p>
田中委員	<p>ちょっと先にこういう授業をやり始めた者として、生意気にアドバイスのことを言わせてもらおうと、今コロナで机くつつけられませんが、できれば2人くつつけて、もっと相談しやすい環境でやって欲しいなど。やはり早くできて遊んでいるのか、操作の仕方がわからなくてどうしたら良いかわからなくなっているのかわかりませんが、それが2人だと「こうした方が良いよ」とお互いに言いやすくなるというところが一つです。</p> <p>私も研修、一回一緒に受けさせてもらって、今使っているソフトはすごく使いやすいソフトなんですよね。ですから先生方にも、もっとどんどん使い慣れていって欲しいなと思います。教育長さんも言っていましたが、子どもの方がずっと使えるようになるのが早いし、文科省も教師を追い抜いてどんどん自分でプログラミングできる、そういう子が育てて欲しいというのが本当のねらいではないかというふうに思います。</p> <p>ということで大変良い授業を見させていただきました。もっと前あった、色々な教育改革のツールと言われていたものが、いつのまにか誰も使わないで埃を被っているような状態にならないで欲しいなと思います。</p> <p>あともう一つだけ、統合型校務支援システム、サイボウズを鶴岡市では使うのですか。</p>
学校教育課長	<p>いえ、サイボウズはグループウェアだけです。今想定しているのは、スズキ教育ソフトのシステムです。</p>
田中委員	<p>他の学校でもやっていて、同じものだったんで使いやすいというものです。校務支援システムとか、そういう、先生たちが色々な情報交換や連絡とか、変な話、朝会をわざわざとらなくてもここを開けば重要事項・連絡事項が全てわかるとか、出席、欠席とか、そういうものがわかるような、そういうものになると思うのですが、是非先生方の負担にならないようにして欲しい。パソコンを入れて、そういうシステムを入れて、それを使うとかえって先生方の仕事が増えるとか、ストレスが溜まるというようなことにならないような使えるソフトでやっていただきたいと思います。以上です。</p>
教育部長	<p>はい、ありがとうございます。では毛呂委員お願いします。</p>
毛呂委員	<p>大体皆さんおっしゃってくださったんで、本当にこの、初めて授業を見させ</p>

	<p>と、ありがとうございます。ICTの可能性・有効性を本当に実感しました。山中先生とか一生懸命頑張ってくれていて、各学校に行ってくれているのでなんとか上手くいっているのかなど。これが全ての学校で上手くいって欲しいなと思います。</p> <p>田中先生が言っていたように統合型校務支援システムなのですが、医療人として、一番最後に保健管理というのがあります。僕の兄弟も同じ仕事をやっていて、横浜なんですけど、同じこの校務支援システムを使って、健診もパソコンでやると。僕、歯科医ですから、歯をこうやっているのと、一緒に連れて行った衛生士がそこで打って、右上6番がCとか、なんとかなんとか全部打つと。打ってそれが残っちゃうと。以前のも全部載っているんです。今後多分そういうふうになっていくと思うんです。</p> <p>そうすると養教の先生たちが、何が大変かということ、その後のコンクールだとか、何かするという時にまとめるのがすごく大変なのです。養教の先生は基本、子どもたちが怪我をしたとか、具合が悪いということに対応をするためにいる訳で、その整理をするためにいる訳ではないものですから、それをコンピューターが全部やってくれれば非常に楽なので、今後校務支援システムというのは、今年度、中学校11、来年小学校の13、13でいくということなので、なんとかできる限りどんどん進めてもらって、もっとボリュームをあげてもらいたいなと思います。本当にどうもありがとうございました。</p>
<p>教育部長</p>	<p>はい、ありがとうございました。最後になりましたが、市長よりお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>鈴木校長先生の下で、しっかり活用が進んでいるということがわかりまして、自分の小学校の時とは全く違う状況なのだなと。こういうのが当たり前の世の中なのだなというふうに思いました。社会に出て行った時に、毛呂委員からもお話ありましたけれども、医療分野ももちろんですが、様々な分野でICTがない職場というのは、ほぼないような状況だと思いますので、教育現場がむしろちょっと遅かったというか、先ほど電子黒板の話もありましたが、色んな試行錯誤があったとは思いますが、ようやく本格的に使えるような段階まで来たんだろうなと思いますので、学校現場で進めていく途上にあるということも間違いのないと思いますので、先生方、また児童生徒の皆さんを、教育委員会を中心に、また清野委員からも地域の方との連携という話もありましたので、そういったことも含めて、ICT活用などは当たり前になってきたと思いますので、山中さんから御紹介があったこういうSky(スカイ)の情報誌で取り上げられたように、是非鶴岡市でしっかり進めて、使って初めて評価されるものだと思いますので、お願いしたいというふうに思いました。</p> <p>それから先ほど来、出ておりますように、やはりこのインフラ環境ですね、Wi-Fiが繋がらないとか、そもそもの根本的なことも、もしかしたらあるのではないかというお話もありましたけれども、そういう不安があると、なかなかいざという時に使えないということがありますので、このあたり重要な点だと思いますので、今年度その状況をよく見ながら、やはりストレスがあるとな</p>

	<p>かなか広がっていかないのではないかと思いますので、まずは通信環境、家庭の部分も含めて、しっかり見ていく必要があるというふうに思います。</p> <p>それから、通信環境の下での利活用ということで、学校の先生方が研修を受けながらバックアップ体制を整えて進んでいく訳ですけども、その鈴木校長先生からもありましたが、ローマ字のタイピングをいつからやるのかとか、なかなか判断が迷うようなことをどうするのかとか。究極的に言うと、鈴木校長先生の資料にあるような、いつ使わせないかというような、そういうようなことになるのかなという感じもするのです。今までだと、手段と目的がちょっと逆転しているようなところがあって、あるから使わなくてはいけないというような状況であったと思うのですが、これからはこれを活用してGIGAスクールの目標である学び方の改革、また、教職員の働き方改革に繋げていくということだと思いますので、いつ使わせないかという視点でも、どんどん使ってもらえるようなことが必要なんだろうと思いますので、そういった指針なりですね、これがまた難しい点なんだろうと思いますが、教育委員会の方でも学校現場の運用事例を含めてしっかり把握して進めていただければと思います。</p> <p>統合型校務支援システムにつきましては、より生徒に接する時間を増やしていくという視点もありますし、また、保健管理という話もありましたので、やはり今までの働き方、情報管理が大きく改善していく可能性があると思いますので、この部分でも先進的な教育行政となるように、引き続きしっかりと取り組んでいただきたいと思います。以上です。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ありがとうございます。先ほど来、ネットの通信環境につきまして御指摘・御質問等ございましたので、担当の山中の方から若干御説明させていただきたいと思います。</p>
<p>学校教育課 指導主事</p>	<p>それでは今資料の方配っておりますので、そちらの方を御覧ください。</p> <p>それでは、私の方からインターネットの環境について、接続しにくい状況が一部学校で発生しておりますので、その原因と対策、それから今とっている現状について簡単に御説明させていただきます。</p> <p>大きく見ますと2つの原因が考えられます。まず(2)の方を御覧ください。(2)がアクセスポイントからの電波の問題になります。電波が2.4GHzと5GHzというものがあるのですが、2.4GHzの方が飛ぶということで当初これで考えておりましたが、その先にある端末とテレビを結ぶ、無線で飛ぶワイヤレスディスプレイアダプタというものを同時に整備させていただいたのですが、そちらが2.4GHzの固定だということで、同じ2.4GHzを使うと干渉が起こるとということで、少し電波が飛ばない5GHzを現在採用しております。</p> <p>その結果、インターネットが繋がりにくいという現状が出ております。これに対しては5GHzの中でもチャンネル帯がいろいろありますが、そのチャンネル帯をずらすことによって、2.4GHzを再度開放することができるようになるということがわかってまいりました。現在それぞれの学校に出向いて2.4GHzを開放する、チャンネルを調整することによって、他の機器との干渉がないように</p>

	<p>するという対応を運用保守契約の業者さんとともに行っているところです。</p> <p>また、(1)の方を御覧ください。それでも繋がらないというのは、やはり大本のインターネット回線の遅さが原因となります。当初我々が予想していた使用頻度よりも、研修や周知のおかげもあって、どの先生も割と使っていたという現状がありまして、予想を上回る使用の量となっております。そこを踏まえまして、インターネット回線の増強を検討しております。</p> <p>既に今年度に関しては財政当局と話をしまして、学校教育課内の予算を流用することで回線を現在4倍に増強する予定で動いております。来年度以降もその回線を維持するというところで財政当局とは話をしているところです。まず4倍に増やしてみようかというところ。それから細かいことを言いますと、各校にインターネットの入り口があるのですが、そちらも足りているかどうか今後注視しながら、できる限りの対応をしていき、インターネットがストレスなく繋がるようにという動きをしてまいりたいと思います。</p> <p>それから先ほど来、委員の方々から、先生方の中で差が無いようにという話もありましたが、研修だとどうしても一方通行になってしまいがちですので、我々指導主事が各校に出向いて授業等参観しております。その中で先生方から何か困りごとがないかとか、実情どうでしょうかというような意見を聞くことなどを通して、現状・実態を把握したうえで、さらにどういう動きができるのか、先生方がもっと使ってもらえる方法がないかということを日々検討して動いてまいりたいと考えております。以上です。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ただ今の点につきましてよろしいでしょうか。</p> <p>それでは協議題のもう一つの「その他」に入りたいと思います。</p> <p>初めに、令和2年12月17日に開催しました、「令和2年度第3回鶴岡市総合教育会議」におきまして、委員の皆様より頂戴いたしました御意見・御提案に対する対応などにつきまして、事務局の方から御報告をさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。</p>
<p>管理課長</p>	<p>皆さんのお手元にペーパーもお出ししておりますが、前回、令和2年度第3回の総合教育会議での提案・要望への対応について、私の方から説明させていただきます。</p> <p>前回の議題はですね、「コロナ禍での学校の現状について」と、もう一つの議題が、「酒井家入部400年記念事業における人材育成について」という2つの議題でございました。</p> <p>まず、コロナ禍での現状につきましては、皆様方からの御提案・御要望の中で、コロナに伴う学校での人員、予防対策経費についてということで、学習指導員やスクールサポートスタッフ、また、学校に使い勝手の良いお金を来年度、今年度ですが、また続けて欲しいというような御要望がございました。</p> <p>これにつきましては、学習指導員、スクールサポートスタッフにつきましては、昨年度は県事業として多く配置されておりましたが、今年度につきましては国からの補助がなくなったことによりまして、市内の小中学校に学習指導員</p>

が4名、スクールサポートスタッフが8名と、大幅に減となっております。これにつきましては、さらに増員されるよう県の方に要望していきたいと考えております。

また、もう一方の、使い勝手の良いお金ということですが、昨年度コロナ対策としまして、感染症対策や学習保障に使える補助金が国の方から交付されておりまして、各学校、人数に応じまして200万から100万円をそれぞれ配分しております。なおその後、この総合教育会議の後に第2弾で同様の補助金が3月に追加で交付されまして、この時は160万から80万という額で、こちらも再度学校の方に配分しております。

それから2番目のGIGAスクール構想についての御要望が様々ございました。一つは「GIGAの専門員の配置をお願いしたい」、それから「ネット環境が不十分な家庭へ支援をお願いしたい」、それから「教科担任全てにタブレットの配布をお願いしたい」、「全校生徒が同時に画像と音声を確認できるネットワーク整備をお願いしたい」、こういった御要望がございました。

まず1番目のICT支援員の配置につきましては、市としては現在考えておりませんが、指導主事やICT推進係を設置しておりますし、また、納入業者が相談に当たるように対応しております。

また、家庭への通信環境整備につきましては、先ほど御説明したように、Wi-Fiルーターの貸与、それからSIMカードの配布を支援していく計画でございます。また、タブレットの配布につきましては、今年度中学校の教科担任にも全て配布済でございます。ネット環境につきましては先ほど御説明したとおりでございます。

次のページに「特別教室の冷房について、早急に進めて欲しい」という御要望もございました。これにつきましては今年度から3か年計画で小中学校の特別教室への冷房整備に取り組んでございます。

次に、子どもたちへの指導、ケアについて。コロナ禍での子供への指導、それから差別を受けないような指導、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの常駐はできないかというような御要望がございました。

これにつきましては、感染者や濃厚接触者、医療従事者等への偏見、差別、誹謗中傷がなされないよう、文部科学省が作成した資料等を基に指導しております。また心のケアにつきましても最大限配慮しながら取り組んでおります。

次に、酒井家入部400年記念事業における人材育成についての御要望・御提案でしたが、「保護者、先生の理解をもっと深めていくべきではないか」というような御提案がございました。

これにつきましては、一つは、令和4年度に各小中学校に講師派遣を行いまして出前講座を開催する予定です。それから、「親の世代も巻き込んだ歴史理解が必要ではないか」という御提案でしたが、今年度親子記者プロジェクトや親子文化財めぐりなどを開催する予定でございますし、令和4年度に小冊子を配布しまして、家庭内での話題の共有を図るよう努めてまいりたいと考えておりま

	す。概要は以上でございます。報告でございました。
教育部長	<p>報告は以上でございます。御理解賜りますようよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局で用意しております事項は以上のとおりでございます。他に、御出席の皆様で何か御発言がございます方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>なければ、活発な御協議、誠にありがとうございました。これをもちまして、令和3年度第1回鶴岡市総合教育会議を閉会いたします。皆様、大変お疲れ様でございました。</p>

閉会（午後3時35分）